

Profile

こども学専攻教授。博士（家政学）。専門は家政哲学。生活科学。2011年4月に明和学園短期大学に着任。2022年4月より現職。2010年からボランティア組織『ぴたごらきっず』を主宰。子どもとその保護者を対象とした実験工作教室を実施。2011年から小学校にて「読み聞かせ」を実践。2014年から子育て期の父親を対象とした憩いの場を作り、育児参加を促進するプログラムの開発。対話アプローチと参加型アクティビティを含むセミナーを実践。持続可能な父親のワークライフバランスの在り方を探る。現在、サイエンスとアートをコラボレーションさせた「造形ワークショップ」を幼稚園、小学校などで行い、思考力と豊かな感性を育む実践教育に取り組む。主体的な学びや探求学習、その指導法の開発と実践を行う。児童文化センターの運営委員として指導助言と科学教室などに参画。



学生へメッセージ

私の専門は「家政哲学」というもので、人間形成における家庭教育の本質としての対話の重要性について研究をしてきました。対話と聞くと難しく感じられますが、対話とは「話すこと」と「聞くこと」で、人間関係に最も大切なことだと思っています。ぜひ、真の対話を一緒に学びませんか。学生時代はもちろん社会に出ても人間関係はすべての中心となります。その際、対話としてのコミュニケーション能力がどんな場所でも必要とされます。私の授業は常に学生との対話を基本に、自分をさらけ出し「話す勇気」と素直に心を開いて「聞く勇気」を大切に授業をしています。ぜひ授業だけでなく学生生活の中で一緒に対話をしましょう。

また、もう一つの専門に「生活科学」というものがあり、造形や遊びの授業の中で、体験活動を通して豊かな感性を育むことを目的としています。生活に身近なものを使ってオリジナルのおもちゃ作りなどたくさんの教材研究をします。そして制作して終わりではなく、「作って、遊ぼう」をコンセプトに真剣に遊びます。遊びの中にこそ学びがあります。また、現役の保育士や幼稚園の先生を対象とした研修会でも2万個の紙コップで「紙コップタワー」やお花紙を使った「お花のシャワー」などの体験活動を行い、共同作業の面白さを実感してもらっています。遊びの中にたくさんの素敵な対話が生まれます。ぜひ体験活動を一緒にしませんか。